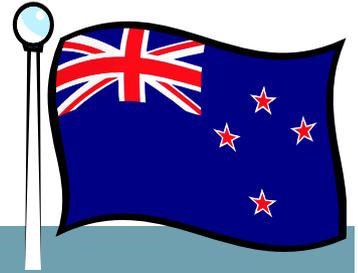


オセアニア[NZ]



1 農・畜産業の概況

ニュージーランド(NZ)の農業(林業、水産業を除く)は、GDPや就業人口に占める割合がいずれも1割にも満たない。しかし、総輸出額(FOB)に占める農産物の割合は、5割を超える水準となっており、外貨獲得上、農業は豪州以上に重要な地位を占めている。

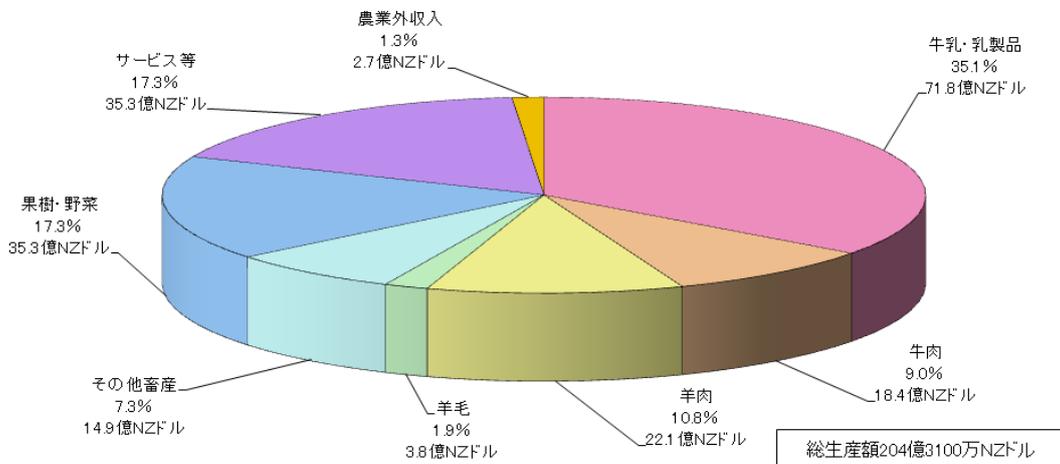
畜産部門は、農業粗生産額の約2/3、農産物輸出額の約3/4を占めている。特に酪農乳業は、農業粗生産額の約1/3、農産物輸出額の4割超を占めるなど、農業において極めて重要な役割を果たしている。

2009/10年度(4~3月)の農業粗生産額を部門別に見ると、酪農部門は、乳製品国際価格の上昇を背景に、前

年度比8.2%増の72億NZドル(推計)とかなり増加した。一方、牛肉部門は、同11.9%減の18億NZドル(推計)となった。この結果、畜産部門全体としては、同2.3%増の131億NZドルとなっている。

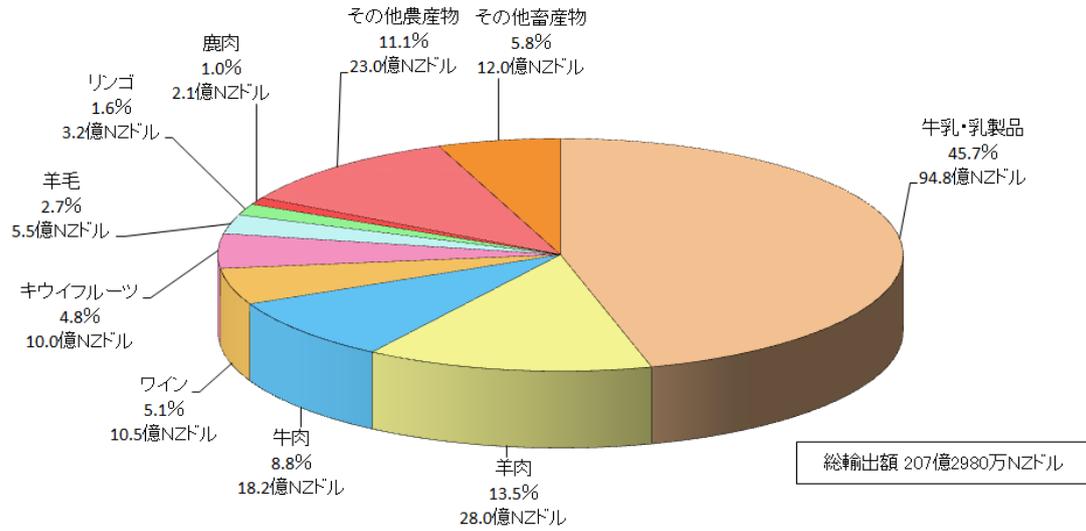
これに対し、2009/10年度(7~6月)の農産物総輸出額(FOB)は、前年度比6.0%減の約207億NZドルとかなり減少した。このうち、畜産物は、同6.4%減の約161億NZドルとなった。内訳は、牛肉(生体を除く)が約18億NZドル(9.1%減)、羊肉(生体を除く)が約28億NZドル(7.0%減)、羊毛が約6億NZドル(3.1%減)、鹿肉が約2億NZドル(28.9%減)、牛乳・乳製品が約95億NZドル(5.5%減)と軒並み減少した。

図1 農業粗生産額(2009/10年度)



資料:MAF「SONZAF 2010」

図2 農産物総輸出額(2009/10年度)



資料: Compendium of New Zealand Farm Facts (35th edition March 2011)

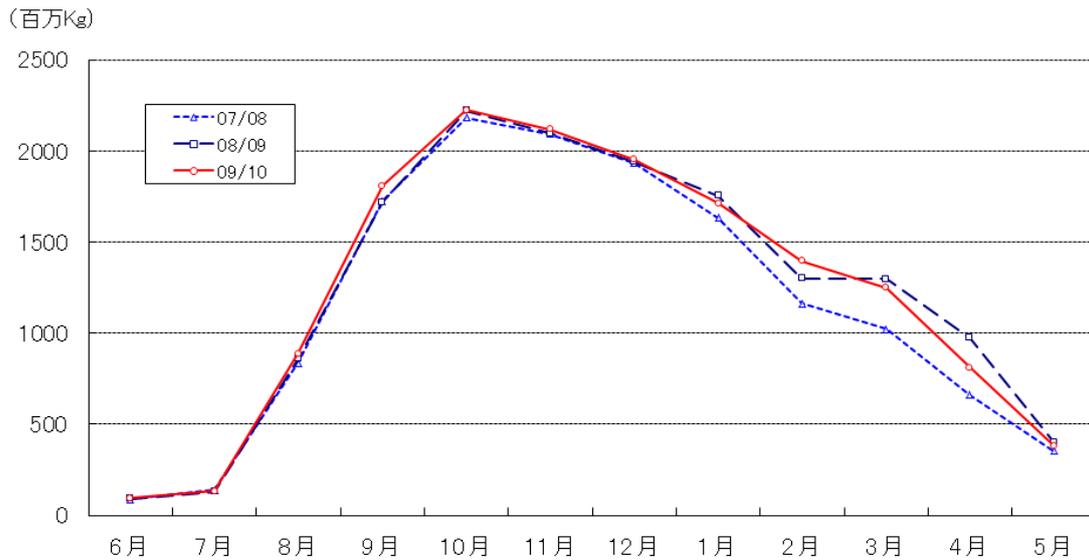
2. 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

NZの酪農は、温暖で降雨に恵まれた自然条件を生かし、草地を最大限に利用した放牧中心の飼養形態である。このため、年間の生乳生産は、牧草の生育状況と密接に

連動しており、初春となる8月から搾(さく)乳を開始し、10～12月の初夏をピークにその後次第に減少、5月頃にはシーズンを終えるという明確な季節型生産体系を示している。生乳生産の中心となる9～2月の6カ月間で、年間の約3/4を生産する。

図3 生乳の処理状況の推移(具体例)



資料: 農畜産業振興機構作成

NZでは、粗飼料(放牧)に依存した生産体系により、生乳生産のコストは世界的に見て最も低い水準にある国の一つといえる。生産量の約95%が輸出に仕向けられる乳製品は、NZの総輸出額の20%程度を占めており、酪農・乳業部門はNZの基幹産業の一つとして位置付けられている。

NZは、生乳生産量については、全世界の約3%を占めるにすぎないが、乳製品の国際貿易における供給国としてのシェアは27%(2009年:生乳ベース)を占め、世界最大の輸出国となっている。また、国内市場の規模が小さいため、生乳生産者価格、乳製品価格は、いずれも国際市場の影響を強く受けざるを得ない状況にある。

① 主要な政策

酪農・乳業に対する国内の価格支持政策は存在しないが、2001年9月まで、ニュージーランド・デイリーボード(NZDB)が乳製品の一元的輸出機能を持っていた。しかし、同年10月、二大酪農協とNZDBの販売機能を取り込

んだ巨大酪農協(乳業メーカー)フォンテラが誕生し、酪農産業の再編が達成された。

フォンテラの誕生と同時に2001年、生乳および乳製品市場での競争を促進することを目的とした酪農産業再編法(Dairy Industry Restructuring Act 2001)が成立した。これは、フォンテラの市場独占による弊害の回避による、酪農家および消費者の保護とや、乳業メーカーの新規参入の機会付与の規定が盛り込まれている。フォンテラには、年間60万キロリットルを上限として他社に生乳を供給することを義務付けている。

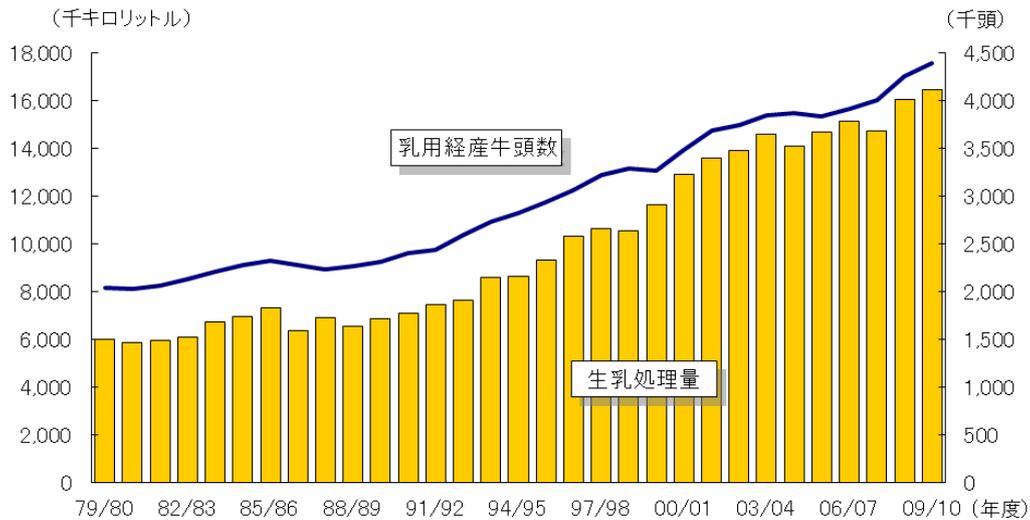
生乳生産は、1990年代を通じて好調な輸出を反映して増加基調で推移し、2000/01年度(6~5月)には処理量ベースで1292万5千トンと、1990/91年度から82.6%の大幅な増加となった。経産牛の飼養頭数で見ても同36.1%の大幅増である。その後も、経産牛飼養頭数および1頭当たり搾乳量の増加を反映して、生乳生産は右肩上がりで推移している。2009/10年度の経産牛飼養頭数は、前年度比3.4%増の約439万7千頭となった。また、生乳生

産量も生乳生産者価格が前年から上昇したことなどを
 受け、前年度比 2.7%増の 1648 万3千トンとなった。

NZ の生乳生産は北島が中心であるが、近年は南島で
 の拡大が著しい。2009/10 年度の経産牛頭数をみると、

北島は前年度比 1.4%増の 286 万頭とわずかな増加にと
 どまる一方、南島は同 7.2%増の 154 万頭とかなり増加し
 た。これは南島において、収益性低下により、羊・肉牛部
 門から酪農部門への転換が進んでいることによるもので
 ある。

図4 乳用経産牛頭数と生乳処理量の推移



資料: Livestock Improvement 「Dairy Statistics」

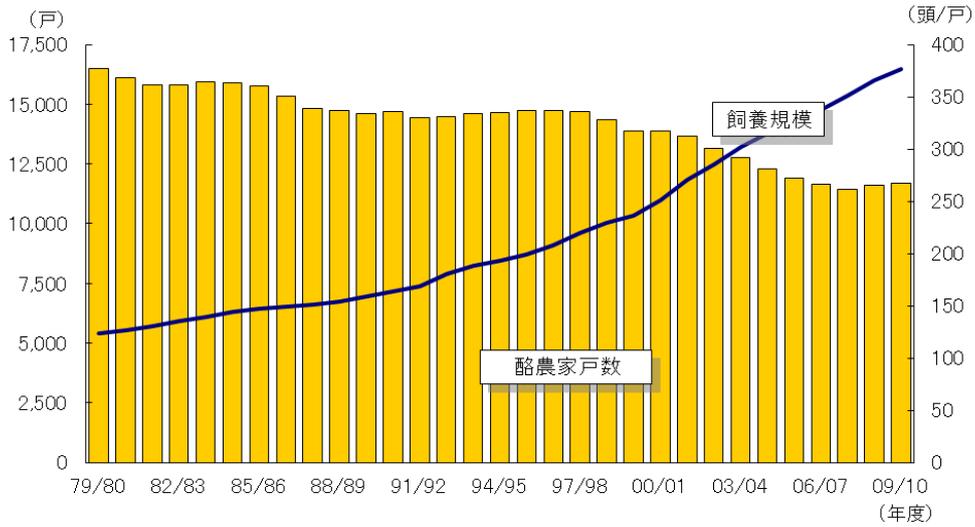
注1: 年度は 6 月～翌 5 月

注2: 乳用経産牛頭数は 12 月末時点

酪農家戸数は、地価の上昇などから新規参入が難しく
 NZ 全体では減少傾向で推移していたが、2008/09 年度に
 下げ止まりを見せた。2009/10 年度は、前年度比 0.6%増
 の 1 万 1691 戸とほぼ横ばいとなっている。

一方、1 戸当たりの経産牛飼養頭数は、規模の拡大に
 より一貫して増加傾向にあり、2009/10 年度は前年度比
 2.7%増の 376 頭となった。このうち、500 頭以上を飼養す
 る経営は、前年度比 2.0ポイント増の 23.2%、1000 頭以上
 を飼養する経営は同 0.4ポイント増の 3.4%となった。

図5 酪農家戸数と飼養規模の推移



資料: Livestock Improvement 「Dairy Statistics」

注1: 年度は6月～翌5月

2: 乳用経産牛頭数は12月末時点

表1 地域別の飼養戸数・頭数・規模の推移

地域/区分・年度	飼養頭数(千頭)					飼養戸数(戸)					飼養規模(頭/戸)				
	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10
北 島	2,737	2,761	2,757	2,821	2,862	9,619	9,343	9,050	8,998	8,973	285	296	305	314	319
南 島	1,095	1,155	1,256	1,432	1,535	2,264	2,287	2,386	2,620	2,718	484	505	526	546	565
NZ合計	3,832	3,917	4,013	4,253	4,397	11,883	11,630	11,436	11,618	11,691	322	337	351	366	376

資料: Livestock Improvement 「Dairy Statistics」

注1: 年度は6月～翌5月

2: 12月末時点

3: 頭数は当該シーズンに搾乳された乳用牛頭数

② 牛乳・乳製品の需給動向

NZの乳製品生産は、かつて、法律に基づき輸出を一元管理するNZDBの市場戦略により調整されていたが、フォンテラ設立に際し、輸出が自由化された。しかしながら、同国におけるフォンテラの乳製品生産のシェアは、依然として約9割を占める。

輸出相手国は、フォンテラの企業戦略と相まって、北米、EU地域、アジアや中南米など世界140カ国となっている。フォンテラは、2002年に世界的な大手食品メーカー「ネスレSA」と合併企業を設立。2003年1月から中南米の市場での乳製品製造・販売を手がけ、また2007年には中国において牧場を建設し生乳生産を行うなど国際市場への積極的な進出を図っている。

2009/10年度(7~6月)の乳製品輸出量は、バターは前年度比1.9%増の24万7千トン、チーズは同3.1%増の27万9千トン、全粉乳は同32.2%増の90万3千トン、脱脂粉乳は同16.6%増の38万4千トンと、生乳生産量の増加に

加え、国際価格が堅調であったことから軒並み増加した。特に全粉乳については中国からの需要増により大幅な増加となった。

表2 生乳生産量および乳製品輸出量の推移

(単位:千頭、千トン)

区分/年度	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10
経産牛頭数	3,832	3,917	4,013	4,253	4,397
生乳生産量	14,702	15,134	14,745	16,044	16,483
バター	247	245	240	243	247
チーズ	272	311	274	271	279
全粉乳	640	652	634	683	903
脱脂粉乳	248	327	252	330	384

資料: Livestock Improvement 「Dairy Statistics」、Statistics New Zealand

注1: 経産牛頭数は各年度12月末時点

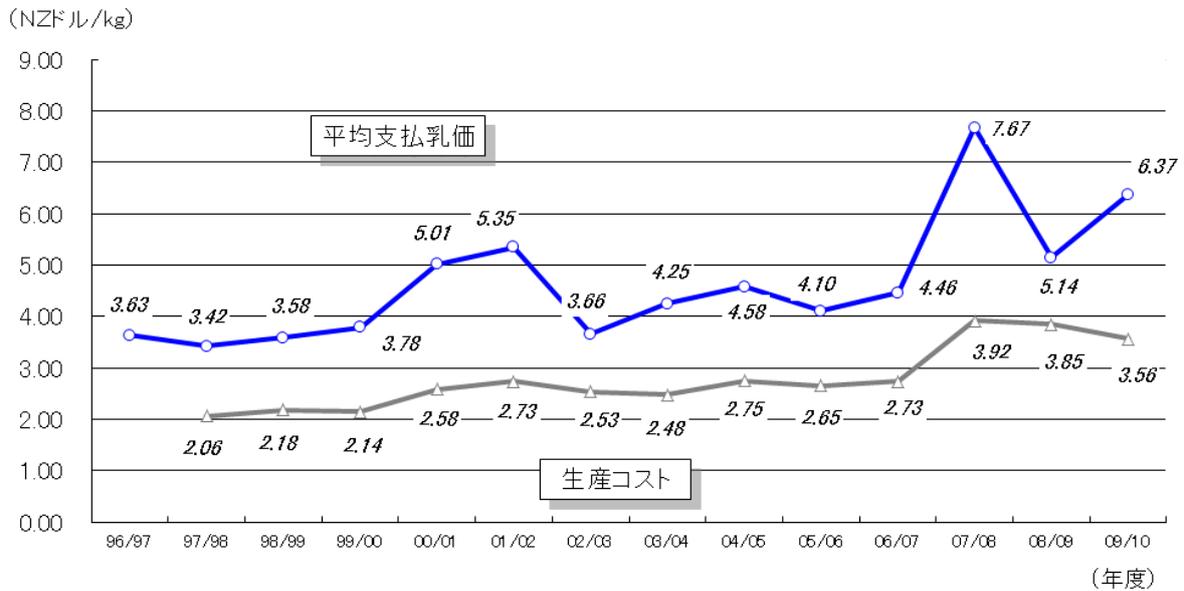
注2: 乳製品輸出量は各年7月~翌6月

③ 乳価の動向

生乳生産者価格(平均支払乳価)は、乳製品の国際需給に大きく影響され、国際価格や為替相場(NZドル)の動向などに左右される。

2009/10年度は、国際乳製品価格が堅調であったことなどから、乳固形分キログラム当たりの価格は、前年度比23.9%高の6.37NZドルと大幅に上昇した。

図6 生産コストと平均支払乳価の推移(乳固形分ベース)



資料: Dexel 「Economic Survey of New Zealand Dairy Farmers」、Livestock Improvement 「Dairy Statistics」

(2) 肉牛・牛肉産業

NZの肉牛生産は、豪州以上に草地に依存した生産体系となっており、放牧肥育がそのほとんどを占め、穀物肥育は例外的といえる。

年間の牛肉生産(と畜)の傾向は、生乳生産と同様に牧草の生育ステージと密接に連動しており、生乳生産が終了する5月にピークを迎える。その後は春先にかけて大きく減少という季節性を有している。このため、生産が落ち込む8~9月の成牛のと畜頭数は、ピークとなる3~5月の3分の1程度にまで減少する。

豪州の牛肉生産は、大部分が肉専用種によるものであるが、NZでは、肉用牛として飼育される3分の1程度は、乳用種または乳用種・肉用種の交雑種となっている。

酪農部門から供給される乳用種の雄牛は、子牛肉として出荷されるものが多いが、残りは去勢しないまま飼養され、乳用経産牛と同様に加工用牛肉(ひき材用途)として、

米国を中心とした北米市場に輸出されている。このことから、酪農部門は、肉牛供給という面からも牛肉生産にとって重要な役割を担っている。

NZの肉牛生産は、酪農部門と同様に、国内の市場規模が小さいことから輸出依存度が高く、生産された牛肉のうち、金額ベースでおよそ8割程度が輸出に向けられている。このため、肉牛生産も酪農部門と同様、価格面などで国際市場の影響を強く受けている。

① 肉用牛の生産動向

肉用牛の飼養頭数は、収益悪化による経営規模の縮小や、酪農、養鹿、林業など収益性の高い部門への転換などが背景となり、1995年6月期の518万頭をピークに減少を続けていた。また、1997/98年度および1998/99年度と東部を中心とする干ばつが続き、早期出荷や繁殖牛のとう汰も進んだ。その後も、酪農やほかの畜種への転

換などで飼養頭数は回復せず、2010年6月時点の肉用

牛飼養頭数は、前年比4.3%減の392万4千頭となった。

表3 牛飼養頭数の推移

区分/年	(単位:千頭)					
	2005	2006	2007	2008	2009	2010
肉用牛	4,431	4,439	4,394	4,137	4,101	3,924
うち繁殖用経産牛	1,258	1,269	1,195	1,104	1,096	1,137

資料: 2008年以前は Meat & Wool NZ「Annual Report」、2009年以降は beef + lamb NZ「Annual Report」

注: 6月末時点

② 牛肉の需給動向

牛肉の生産量は、1996/97年度を境に減少傾向にあったが、2000/01年度以降干ばつから回復したことで、増加に転じた。その後は、飼養頭数の増減に合わせて変動するものの、60~70万トン間で推移している。2009/10年度のと畜頭数については、成牛が237万6千頭と前年度から2.3%の減少となったものの、子牛が同9.2%増の155万2千頭とかなり増加したことから、牛肉生産量は、同0.3%減の61万トンとほぼ横ばいでの推移となった。

2009/10年度の輸出量は、前年度並みの36万6000トンとなった。最大の輸出先である北米向けが18万4000トンと輸出量全体の約1/2を占め、次いで北アジア向けが9万4000トンと1/4程度を占めている。

③ 肉牛・牛肉の価格動向

北米向け輸出の多くを占める加工用牛肉の価格は、輸出が不振を極めた95/96年度を底に回復傾向で推移したが、2002/03年度は、最大の輸出先である米国において乳用牛のと畜頭数の増加などによる需給緩和により落ち込みを見せた。その後、米国経済が好調に推移したことや、2003年5月にカナダで発生したBSEにより同国産牛肉の米国への供給がストップしたことなどから価格は上向きに転じたが、近年は、米国における乳牛とう汰や為替相場などの影響を受け安定していない。2009/10年度は、NZドル高の影響などから、前年度比9.9%安のキログラム当たり200NZセントと前年水準をかなり下回った。高品質牛肉価格についても、同9.7%安のキログラム当たり334NZセントとなった。

表4 牛肉需給・価格の推移

区分／年度	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10
成牛と畜頭数(千頭)	2,338	2,292	2,367	2,431	2,376
子牛と畜頭数(千頭)	1,389	1,369	1,507	1,421	1,552
生産量(千トン)	620	601	610	612	610
輸出量(千トン)	373	352	363	364	366
加工用牛肉価格(NZセント/kg)	233	212	210	222	200
高品質牛肉価格(NZセント/kg)	300	322	333	370	334

資料：2008年以前のと畜頭数、生産量および輸出量は Meat & Wool NZ、2009年以降は beef + lamb NZ、牛肉価格は MAF

注1：年度は10月～翌9月、ただし、牛肉価格については、7月～翌6月

2：生産量は枝肉重量

3：輸出量は製品重量

4：09/10年度は暫定値